

## 特集：たまご歳時記（2）

昨年の4月号で「たまご歳時記」を特集しました。 その特集では特に「たまご」関係者が行っている**主要行事**を中心に説明致しました。 今号ではそれ以外に季節性を持ち、たまご消費に関係している行事について特集致します。

### たまご歳時記（たまごが主食材の季節行事と卵関係の主要行事）

- 1月 正月（伊達巻、玉子焼き） 、大寒（大寒のたまご）
- 2月 節分（恵方巻き）
- 3月 ひな祭り（ちらし鮭）
- 4月 イースター（イースター・エッグ・ロール）
- 5月 母の日（オムライス）
- 6月 オムレツの日（6月2日）、たまニコ甲子園（6月11日）＊
- 8月 親子丼の日（8月5日）、エッグの日（8月9日）
- 10月 たまごかけご飯の日
- 11月 いいたまごの日（11月5日）
- 12月 クリスマス（クリスマスケーキ、スコッチエッグ）

（上記の内、青い太線の項目は昨年4月号でご説明した行事です）

[http://www.jpa.or.jp/news/general/nikkei/2015/20150428\\_01.pdf](http://www.jpa.or.jp/news/general/nikkei/2015/20150428_01.pdf)

### ①大寒：大寒のたまご（2016年は1月21日でした）

一年で一番寒くなる時期で二十四節気の一つである大寒の頃に産卵されるたまごが、最近注目されるようになってきています。 もともと大寒は鶏始乳（にわとりはじめてとやにつく）頃と言われ、鶏が鳥屋に入って卵を産み始め抱卵を開始する頃と解釈されてきました。 つまり大寒が一番寒い時期から徐々に寒さが弱まり始める時期であり、春への先駆けの時期です。 この様な環境下で産卵されたたまごには生気が漲って、滋養に富んでいると言われてきました。また最近人気の風水では大寒のたまごを食べると金運が付くと言われ、これも大寒のたまごに人気が出てきている理由です。 鶏卵生産者にとっては、一番寒い時期ですから、飼料給与量が増加し、鶏卵サイズがアップするにも関わらず産卵個数が減少する時期です。 羽当たり飼料量が増え、産卵個数が減少することにより濃い飼料成分を得られるということから、一年で一番栄養成分の富んだたまごという解釈になり、人気が出てきたのでしょうか。

## ②節分：恵方巻き

(2016 年は 2 月 3 日でした)

節分（立春の前日）の際に、太巻きを作って食べるという風習が近年広まってきました。その際には節分の夜にその年の恵方に向かって無言で、願い事を思い浮かべながら丸かじり（丸かぶり）するのが習わしとされています。元々関西地方の風習であったのですが、近年全国チェーンのコンビニエンスストアが販売することによって、全国的に広まってきました。また縁起物であるので、太巻きに入れる具材も七福神に倣って 7 種類入れるものとされています。この具材に特定の材料の決めは無いものの、太巻きということから玉子芯が中心の具となる事が多く、恵方巻きの浸透によりたまご需要が拡大されたと思われます。節分の豆まきが敬遠されがちで、代わって登場してきたのが恵方巻きである、と解釈している社会学者もいる様です。



恵方巻き

## ③ひな祭り：ちらし鮎

女の子のお祭りであるひな祭りにちらし鮎を作る家庭が多い様です。ひな祭りにちらし鮎を食べるいわれは特に無い様ですが、女の子のお祭りゆえに、華やかな春らしい食べ物ということで、ちらし鮎を食べる風習が広まったのでないでしょうか。縁起物の具材として、えびは「長生き」、れんこんは「見通しがきく」、豆は「健康でまめに働ける」となっていることや、いろどりとしては、玉子の黄色、みつばの緑色、赤い海老などが際立っていることも相俟って、各家庭に定着したのでしょう。錦糸たまごの味が、料理の落ち着きをもたらしており、ちらし鮎の具材としては定番中の定番となっています。ひな祭り以外にも、家族のお祝いの会食にちらし鮎は欠かせなくなりました。



ちらし鮓

④イースター：イースター・エッグ・ロール（2016 年は 3 月 27 日がイースター・サンデー、但しロシア等の正教では 5 月 1 日）

欧米では春を告げる大きなイベントであり、たまご相場にも影響を与えている行事です。イースター・エッグ（英語：Easter egg）とは、復活祭（イースター）の休日もしくは春を祝うための、特別に飾り付けられた鶏卵です。元来、ゆで卵に色をつけたものを使うものですが、最近では、チョコレートで作られた卵や、ジェリービーンズなどのキャンディを詰めたプラスチックの卵などでも代用するようになってきた様です。米国ではホワイトハウスで毎年イースター・エッグ・ロール（イースター卵転がし）が行われており、一種の年中行事となっています。



イースター・エッグ・ロール

イースターにおいては米国鶏卵協会 (AEB: American Egg Board) が大統領夫人にイースターの記念卵 (実際は卵型をした美術品) を贈ることが毎年行われております。イースター卵の記念品は今年で 39 回目になりますが、今年のイースターマンデーである 3 月 28 日に、大統領夫人であるミシェル・オバマさんとオバマ大統領に米国鶏卵生産者を代表して、AEB ヴァン・ザッテン会長とアロンゾ専務理事により今年のイースター記念卵が贈呈されました。同時に今年のホワイトハウスにおけるイースター・エッグ・ロールに AEB は 3 万個のゆで卵を贈呈しました。このホワイトハウスでの催しには 35,000 人以上の親子が集まり、イースターを楽しんだとのことでした。



米国においては 10 月末のハローウィンと同様に、イースターが家族で楽しむ季節感のあるイベントとなっており、そこには卵の存在が欠かせないものとなっています。

## イースター記念卵贈呈式、AEB 会長と専務理事

### ⑤母の日：オムライス



毎年 5 月の第二日曜日が母の日とされていて、カーネーションを母親に贈るといのが、一般的なイベントとなっています。最近では母親への感謝をオムライスで表現する動きもでてきます。

たまごが四季折々のイベントにより多く登場する仕組みを考えて、もっと食卓に彩りを増やそうではありませんか。

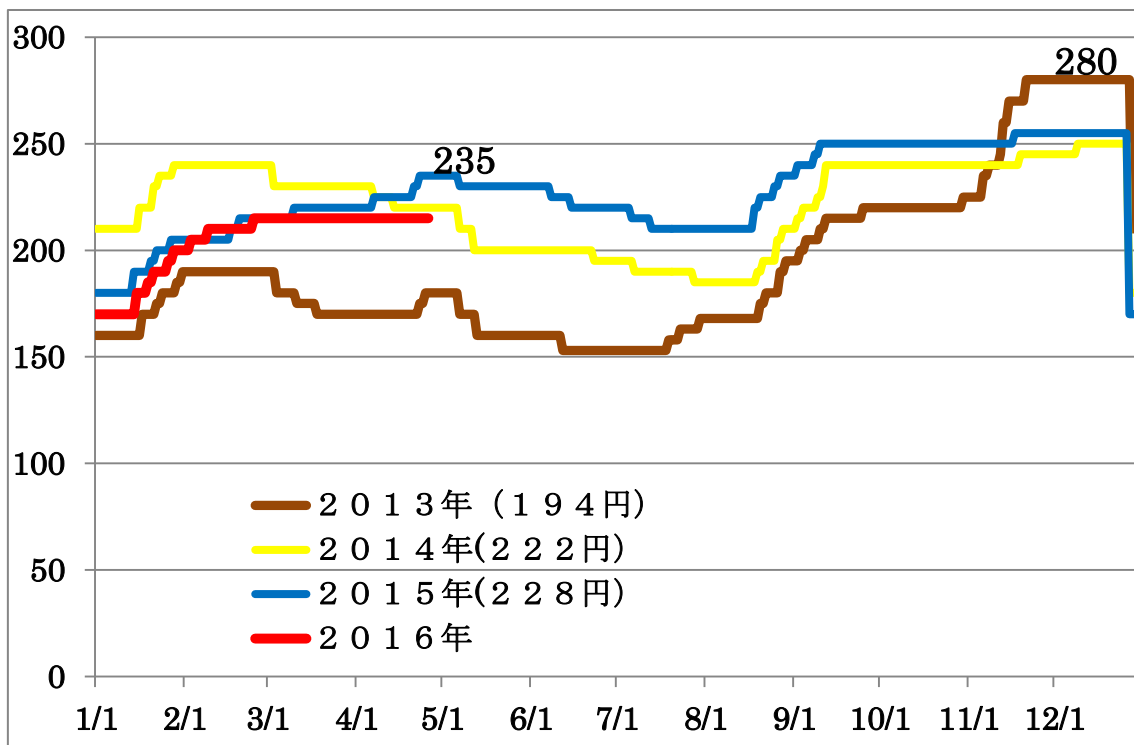


## 【相場動向】 過去 10 年間の 3 月相場

	平均値	高値	安値
平成19年	183	195	175
平成20年	195	195	195
平成21年	180	190	170
平成22年	177	185	170
平成23年	217	260	185
平成24年	178	185	175
平成25年	175	190	170
平成26年	230	230	230
平成27年	219	220	215
平成28年	215	215	215
平均値	197	207	190

平成 28 年 3 月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は 215 円となりました。 今月は月内での動きの無い平坦な相場となりました。 これは昨年の 2 月より 4 円安となり、先月の平均値 209 円より 6 円高くなりました。

## 【鶏卵相場推移 2013 年～2016 年 会計年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



1 月以降、過去 2 年間よりは低いレベルで推移しています。

【鶏卵関係主要計数】平成 28 年 2 月までの 1 年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(ｸ)	前年比	東京全農M	
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230
4月	8,411	95.9%	479	103.5%	838	107.0%	227	223
5月	8,989	101.6%	451	94.9%	856	100.0%	230	204
6月	9,084	102.8%	454	101.6%	803	94.5%	223	199
7月	8,831	99.6%	461	102.3%	818	101.1%	213	190
8月	7,502	103.0%	427	100.2%	805	100.5%	219	192
9月	8,444	95.6%	455	101.0%	802	97.2%	247	231
10月	8,862	104.3%	476	97.6%	851	103.9%	250	240
11月	8,518	104.7%	461	101.6%	842	99.8%	252	242
12月	9,070	103.0%	518	97.1%	850	96.7%	255	248
28年1月	8,317	97.8%	448	96.9%	833	108.9%	182	192
28年2月	8,604	104.0%	470	104.6%	845	103.2%	209	209
1年間小計	103,895	101.7%	5,579	100.1%	9,996	100.8%	227	217

雛餌付羽数は 2 月までの 1 年間で 101.7%と増加傾向にあります。配合飼料出荷量はうるう月であったこともあり、前年対比増え、1 年間を通してほぼ前年並みとなっています。鶏卵家計量も同様で 2 月までの 1 年間では前年消費量よりやや増加しています。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

[\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

1) 価格差補填事業の事業参加者との契約数量(月当たりト)

平成 25 年度	164,822
平成 26 年度	160,792
平成 27 年度	161,936

・3月の標準取引価格 210.36 円/Kg  
(補填なし)

2) 標準価格の年間推移

27年度補填基準価格 188 円      安定基準価格 167 円

28年度補填基準価格 189 円      安定基準価格 169 円

月ごと推移

金額単位：円/Kg

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	平均値
東京 M	227	230	223	213	219	247	
決定標準価格	217.86	222.47	215.46	208.23	219.89	242.48	
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
東京 M	250	252	255	182	209	215	227
決定標準価格	247.84	247.81	247.84	173.55	203.61	210.36	221.45

年度を通じて補填は 1 月のみの 13,005 円となりました。

## (2) 外食産業等と連携した畜産物の需要拡大対策事業

3 月 24 日に学識経験者による選考委員会を開催しました。その結果 4 社に対して本事業の採用が通知されました。 今後は本事業の遂行実務とフォローを当協会が行っていくこととなります。

## (3) 畜産物輸出特別支援事業（鶏卵輸出準備分科会）

・平成 28 年度畜産物輸出特別支援事業は日本畜産物輸出促進協議会の業務委託を日鶏協が受ける形式となりました。 委託契約期間は 28 年 4 月～29 年 2 月となっています。事業費総額として約 53 百万円となり、昨年度実績（約 21 百万円）より大幅増額となりました。 主要な事業と内容は下記となります。

### 事業Ⅰ：長期的なプロモーション活動と人的交流の促進

- (1) 現地消費者等への情報発信
- (2) 人的交流活動
  - ① 検討委員会の開催
  - ② 日本国内への招へい
  - ③ 専門家派遣

### 事業Ⅱ：多言語化による情報発信

- (1) ロゴマークの登録・維持管理
  - ① 検討会の開催
  - ② 商標登録・維持管理
- (2) 国産畜産物の情報の多言語化

## 事業Ⅲ：点から面への取組の拡大

(1) 海外プロモーション活動

① 企画検討会の開催

② 海外プロモーション活動

(2) マーケット調査

予算の太宗を占めるのは事業Ⅲのうちの海外プロモーション活動であり、今後は香港、シンガポール、台湾で「日本のたまご」販売促進のためのイベントを頻繁に行うこととなります。

## ② 各種会議についての報告

### ・ 組織改革委員会

4 月 12 日に組織改革委員会が開催されました。 役員選任規程を設ける事等を理事会に具申することとなりました。

### ・ 理事会

○ 3 月 30 日に理事会が開催されました。 3 月 21 日に開催された組織改革委員会の意見を受けて闊達・真剣な検討が行われました。

○ 4 月 25 日に理事会が開催されました。 これは 12 日に行われた組織改革委員会よりの意見を受けての会議で、役員選任規程を設けることが全会一致で決定されました。

### ・ 鶏卵生産者経営安定対策事業委員会

4 月 25 日に開催され、次年度以降の政策についての協議がなされました。 また政策案についての各地域の意見を反映させるために、5 月 6 日に再度会合を持つこととなりました。

### ・ 国産鶏卵普及問題対策委員会

4 月 13 日に開催され 28 年度事業につき、具体的な検討がなされました。

### ・ 審議委員会

4 月 13 日に開催され、平成 28 年度鶏卵生産者経営安定対策事業の地方への業務委託の各地域における説明会で提起されたことについて検討されました。



- ・鶏卵公正取引協議会 今後のあり方に関する検討小委員会  
4月19日に開催され発足以来の活動レビューを行い、今後のあり方について検討が行われました。
- ・今後の予定
  - 5月6日（金）鶏卵生産者経営安定対策事業委員会
  - 5月24日（火）審議委員会
  - 5月25日（水）正副会長会議、理事会
  - 6月7日（火）鶏卵輸出準備分科会 総会
  - 6月8日（水）国産鶏卵普及問題対策委員会
  - 6月15日（水）鶏卵公正取引協議会 総会
  - 6月16日（木）総会

## 【お知らせ】

### 「採卵鶏農場におけるサルモネラ属菌の保有状況調査」について

農林水産省では平成19年から食品の安全性を向上させることを目的として、サルモネラ属菌を優先的にリスク管理を行うべき有害微生物の一つとして位置づけ、平成19年から鶏卵生産の場である採卵鶏農場におけるサルモネラ属菌の保有調査を行ってきました。また鶏卵のサルモネラ属菌の低減対策として「[鶏卵の生産衛生管理ハンドブック](#)」を平成24年に策定し、促進しています。

この度、平成24年度に策定したハンドブックの対策の効果を確認するため、採卵鶏農場の鶏群の新鮮盲腸便と鶏舎内の塵あいをサンプル取りして、サルモネラ属菌の保有状況並びに衛生管理の取組状況の全国的な調査を行います。

この調査に出来る限り多くの鶏卵生産者が参加することによって、より信頼性の高いデータを得ることができ、鶏卵に対する消費者の信頼がさらに獲得され、鶏卵需要の一層の拡大につながるようになります。

調査結果は全体をとりまとめて公表される予定です。個々の検査結果は、農場の衛生管理に役立てていただくため、結果の意味するところの解説とともに農場あてに個別に送付されます。

会員各位におかれては、出来る限りこの調査に参加して頂く事をお願い申し上げます。今後、具体的な事項等（調査参加意向の確認や試料の取り方など）については随時ご連絡申し上げます。

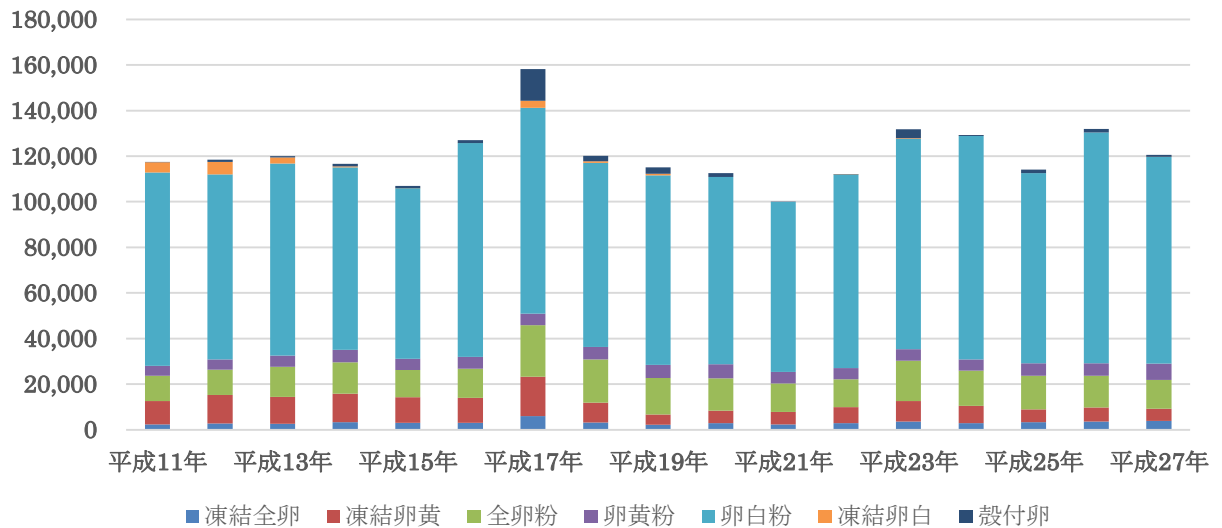
## 【鶏卵輸入統計】

昨年の加工卵の輸入量は米国の鳥インフルエンザの影響もあって、減少しました。

数量単位：トン

	係数	2015年		2014年		前年対比
		数量	殻付換算	数量	殻付換算	
殻付卵	1	821	821	1,625	1,625	50.5%
凍結卵黄	1	5,370	5,370	6,148	6,148	87.3%
卵黄粉	2.2	3,220	7,083	2,444	5,378	131.7%
全卵粉	4.4	2,879	12,666	3,168	13,941	90.9%
凍結全卵	1.1	3,480	3,829	3,307	3,638	105.2%
卵白粉	8.6	10,554	90,761	11,772	101,235	89.7%
凍結卵白	1.2	6	7			
合計		26,330	120,537	28,465	131,965	91.3%

加工卵殻付ベース輸入量推移（トン）



【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2016年4月27日

編集・発行責任者：島田博 ([fuwatama@jpa.or.jp](mailto:fuwatama@jpa.or.jp))